

自己評価		評価(総合)
学校運営計画(4月)		
学校運営方針	『夢へチャレンジ! 未来を拓くMII for me』 「MII for me」「チーム三井」のスローガンのもと、強い使命感と連帯感をもって一丸となり、教育的愛情に基づく生徒理解と生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導で個性を伸ばし、自己実現・夢実現を可能にする意図的・計画的な教育活動を組織的に推進する。	A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	
	具体的目標	
	(1) 自ら考え判断し、自分の行動に責任を持ち、確かな学力を身に付けた生徒の育成	
	(2) 友情を深め、お互いの人格を尊重する生徒の育成	
	(3) 心身ともに健康で、何事においても最後までやり抜く生徒の育成	
	(4) 教職員の資質及び組織力の向上	
	(5) PTA、同窓会、小・中学校、地域との連携及び広報活動の充実	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教科指導	生徒の習熟度に応じた基礎・基本の定着と確かな学力の育成	少人数授業や習熟度別授業を効果的に活用し、基本的な知識・技能を身に付けさせる。 進路支援部と協力し、基礎力診断テストを活用して個々の学力伸長を図る。	B	A	1人ひとりの学習状況に応じ、不適応を防ぐために1年時を中心に展開している少人数授業には一定の効果が認められる。次年度は基礎力診断テストの結果等を踏まえた一層効果的な実施を図りたい。 教科担任連絡会については、研修ICT課や修学支援担当教諭と協力し、全職員に必要な情報を提供できたといえる。次年度は日常生活における不適応の未然防止に関する指導も充実させたい。 教科書については、副教材も含めて各教科で十分検討していただいている。観点別評価の特に基準には見直しが必要だという意見もあり、次年度以降も継続して審議を行う必要があると思われる。 アドヴァンスタイムについては、各学年で工夫して効果的な利用ができていた。校内弁論大会については、実施時期などに課題が残った。図書館については、改装後にレイアウトなどを工夫したい。
	中途退学者の防止	教科担任連絡会等とおして、問題を抱える生徒一人一人に必要な支援や修学状況を全職員で共有し、確認する。 遅刻・欠席の多い生徒について、遅刻届や欠課時数報告用紙を利用し、個別の対応を充実させる。	A	B	
	新学習指導要領に則った教育課程への準備	教科書採択に向けて各教科と協議を重ねる。 本校生徒の実情に合わせて評価基準・規準を見直す。	A	B	
	図書教育の推進	朝の活動の充実、図書委員会の活性化を通して、生徒の読書の推進を図る。 教科・総合的な探究の時間での図書館利用を推進する。	A	A	
生徒指導	基本的生活習慣の確立とマナー指導の徹底	「三井高生3つの約束」を自分たちが守るべき約束として捉えさせ、基本的生活習慣のさらなる確立を図る。 登校指導、服装指導、交通安全指導等とおして、生徒の規範意識の育成を目指す。 アンケート調査や個人面談等を丁寧に行い、いじめへの迅速な対応を行う。	A	B	1年間の指導を通じて、「人の話をしっかりと聞きます」という「三井高生3つの約束」の1つは、守れるようになってきた。年々、SNS等を介しての生徒間における人間関係のトラブルが増加してきているので、適切なコミュニケーション能力を育成していきたい。小郡市と連携を深め、生徒の防災意識・危機管理意識の向上を図ることができた。また、ボランティアとしての地域活性化に貢献出来た。各部活動において、熱心な活動がみられた。しかし、退部・転部も多くみられたので、改善していきたい。今年度の体育祭は、実行委員会を生徒会の専門委員会で結成し、活性化を図ることができた。生徒会執行委員会のメンバーは逸材が揃っているので、更なる発展を目指したい。
	地域連携と防災・危機管理	市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導の推進や甚大な災害等への対応策を検討する。 生徒が地域のイベントや行事等に、ボランティアとして積極的に参加するしくみづくりを進める。	A	A	
	生徒会活動の活性化及び部活動加入率75%の達成	部活動の活性化をととし、多くの生徒に明確な目標を持たせ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。 生徒会活動を充実させ、生徒の自主性を育成し、多くの生徒に学校での充実感を持たせる。	A	A	
			A	A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・少人数授業について評価する。実施形態の弾力的運用を提案する。 ・アドヴァンスタイムを継続してほしい。さらに工夫していただいで、社会に求められる学力観(例えば「データを読み解く力」等)を身につける時間になればよいと考える。
A	・SNSの対策は評価できる。続けてほしい。 ・1人1台端末について関心がある。一方で、社会でよく使われているアプリケーションも使う場面がほしい。卒業後に、高校までで使うものと社会でよく使われるものの仕様が異なり「困っている」という事例も聞く。対策を考えてほしい。

進路指導	3年間を見通した系統的なキャリア教育・進路指導の充実	上級学校や職種を知り、早期に自己の適性に合った進路目標を立てさせる。(第1学年)	A	A	A	・各学年での進路に関する活動は、関係機関が連携し、その目標を達成することができた。次年度は、更に内容を充実させていきたい。 ・3年生希望者の進路実現はほぼ達成できたが、本人の意欲不足や特性から適切な時期に学校の指導に乗らない生徒が若干いた。次年度は本年度以上に、担任や関係分掌と連携し全員の進路実現を図りたい。 ・基礎力診断テストの結果について、さらなる活用を図っていくと同時に、他の業者テストに置き換える検討も行う。
		自己の適性に合った、希望進路に対応するための学力の定着・向上を図る。(第2学年)	A			
		全員の希望進路を実現させ、社会人としての常識やコミュニケーション能力を身に付けさせる。(第3学年)	B			
	一人一人に応じたきめ細やかな進路指導の充実	基礎力診断テストの結果を個人面談や自己評価に活用していく。 進路指導課内及び各学年・各分掌と連携し、組織的に取組を行う。 公正な採用選考及び入試の実現に向けた取組について、関係機関・団体と連携した取組を行う。	B A A			
研修ICT	校内及び校外研修の充実	本校が抱える諸課題及び将来を見据えた研修会を、他の分掌と連携して企画・実施する。	A	A	A	年間10回の研修会や人権・同和教育の研修は、計画的に必要な時期に実施し、十分な成果を上げることができた。次年度も計画的に、より効果が上がるように行いたい。授業アンケートについては、「スタディサプリ」のアンケート機能を十分に活用できなかった面もあるので、次年度はChromebookを用いて定着させたい。
		教員の資質向上のため、授業アンケートや公開授業を推進し、教科指導力を高める。	B			
		人権・同和教育研修の推進・充実を図り、教職員の人権意識や人権感覚を高める。	A			
	授業改善とオンライン学習推進	本年度導入したスタディサプリを用い、授業で活用できるよう研修会を企画・実施する。 生徒育成部と連携して情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できることを目指し、生徒と職員全員が参加する研修会を企画・実施する。 ICT機器や講義室等利用簿を作成し、計画的な利用を促進する。	B A A			
保健環境	心身の健康管理についての取組の充実	SC、SSW、訪問相談員と教職員が十分な連携をとり、教育相談活動を充実させ、生徒が安心した学校生活を送ることができるよう支援する。	A	A	A	学校に来れない、教室に入れないなどの精神的なサポートが必要な生徒が増加しているため、引き続き、SC、SSW、訪問相談員と連携し、生徒の居場所を作り、安心して学校生活を送ることができるような支援が必要である。
		健康調査を実施し、生徒の心身の健康状態について全職員で情報を共有し、生徒の学校生活に有効活用する。	A			
		性と心の健康相談や感染症予防の啓発活動を行い、生徒の心身の健康に対する意識の向上を図る。	A			
	校内外の美化活動の充実	日々の清掃活動を充実させ、特にゴミの分別の徹底を目指す。 大掃除や三井高クリーンアップ週間を充実させ、生徒の美化意識を高める。 各学年による地域清掃活動を充実させる。	B A B			
広報庶務	学校行事等の円滑な実施および検討・改善	要項や案内文書等を迅速に提示し、学校行事等を円滑に実施する。 三井高発表会について検討・改善を図り、活性化につなげていく。	A A	A	A	適切な時期に適切な要項・文書等を提示することができ、学校行事等の円滑な実施に繋げることができた。三井高発表会については、さらに良いものにできるよう次年度以降も検討を継続したい。
		PTA活動の充実	PTA活動行事を精選し、活性化を図ることで、次年度の参加者確保につなげていく。 安全安心メール、学校HP等を活用し、保護者への情報発信を充実させる。			
	広報活動の充実	学校パンフレットや学校HPを充実させ、中学校訪問等で活用して、生徒募集へとつなげる。 「体験入学・部活動見学会・進路相談会」を充実させ、生徒募集へとつなげる。	A B			
		保護者・地域と連携した学校行事の活性化	体育祭や三井高発表会など保護者や地域に開かれた学校行事の充実を図る。 野田宇太郎生誕祭や松崎地区文化祭などと連携して行事を行い、地域への発信を図る。			
A	・オープンキャンパスや、隣接する久留米市での説明会に多くの生徒が参加していることは評価できる。 ・地域との連携で探究活動が活発にできていることも、継続してほしい。					
		A	・授業でオンライン活用する場合の「制限」のかけ方について、先生方がよく研究して、更新による設定変更がないか等、点検を充分にしてほしい。			
A	・一人一人の生徒に丁寧な対応をされている。続けてほしい。 ・地域が高齢化し、三井高生がいないと続けられない行事もある。カリキュラム上の問題がない範囲で、行事への参加等をお願いしたい。					
		A	・ホームページが頻繁に更新されて、学校の様子がよくわかる。情報量が増えると、より「開かれた学校」となり得る。 ・さらに、地域連携の取組の中でも、生徒の主体性をひきだしてほしい。			

人権・同和教育	人権・同和教育に関する知的理解と人権感覚の向上	教職員の人権に関する知識理解と人権感覚の向上のため校内・校外研修へ積極的に参加する。	A	A	今年度は、人権・同和教育に関する校外研修の機会も増え、本校職員には少なくとも年間1回の校外研修への参加を呼びかけ参加してもらった。次年度も同様に校外研修などへの積極的な参加の呼びかけを行っていききたい。 今年度は、人権・同和教育学習の生徒の実態に応じた改善に努めた。学年の事前学習などで協議を行い、指導案の検討を行うことができた。次年度は、人権教育関係の資料や研修会の内容の周知をさらに、更なる改善につなげていきたい。
		各地区における連絡会や地域で開催される諸行事へ積極的に参加する。	A		
		人権教育関係の図書や資料の充実とその周知を行い、人権・同和教育学習の改善や新たな取り組みに活かす。	B		
	個別的な人権課題や生徒の実態を踏まえた人権・同和教育の推進	人権・同和教育推進委員会を定期的実施し、情報交換・共有、指導・支援方法等の確認を行う。	A	A	
		生徒理解のために家庭や中学校、関係機関との密な連携を図り、情報共有や生徒指導・支援を行う。	B		
		生徒の実態把握に努め、各学年の課題を踏まえて、3年間を見通した人権・同和教育学習を実施する。	A		
事務部	教育環境の整備及び改善	定期的な施設設備の点検により、校内危険箇所等の迅速な把握及び改善に努める。	B	A	施設設備の不備や危険箇所等には迅速に対応することができた。大規模改造工事においては、不測の事態による工程変更等で連絡が行き届かないこともあったが、業者や各分掌との連絡調整により教育活動におおむね支障なく実施することができた。来年度も大規模工事を実施予定であり引き続き情報共有を徹底する。
		昨年度に引き続き、大規模改造・改修工事を実施予定であり、教育活動に支障なく実施できるよう各分掌との情報共有を徹底する。			
	予算の効率的・効果的執行	契約内容の見直しや、執行予算の精選等により最小の経費で最大の効果をあげることができるよう努める。	A		

A	・地域連携の取組等でも、多様な存在に出会い、人権感覚が身につく。継続して学びにつないでほしい。
A	・環境整備は大切なことだと考える。障がいのある生徒への配慮のある建物になることは望ましい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学びの状況に適した授業形態の実施、授業のユニバーサルデザイン化を推進できるようにする。 ○ 地域連携・外部機関との連携の取り組みを継続し、交流等を通して、生徒の自己有用感を高めるようにする。 ○ 進路実現のための情報収集を前倒しし、3年生では受験のための学習に取り組む時間を確保する指導を強化する。
--

評価項目以外のものに関する意見	
・生徒の生活実態に即した対応として、考えてほしいことが数点ある。例えば、街灯増設や自販機に軽食を取り入れる等である。部活動生徒が安心して練習に取り組むことができるように、検討してほしい。	